

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山に近い自然豊かな場所にホームがあり、利用者様に季節の移り変わりを感じながら生活をして頂いています。恒例行事として、いちご狩りや虫見物、ぶどう狩り、動物園見学等があり、近隣地域の自然や資源を活用した行事企画を実施しております。施設内に畑を設けており、農作物の成長や収穫を利用者様に楽しんで頂き、収穫した野菜等を調理して召し上がって頂いたりもしています。また、地域の運動会や秋祭りに参加させて頂いたり、幼稚園や保育所に訪問させて頂いたりすることで、地域の方々とも交流を深めています。当ホームには看護師はおりませんが、併設している特別養護老人ホームの看護師や地域の医療機関に協力して頂いており、医療面でも利用者様、ご家族様に安心して頂けるような体制をとっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 10 月 28 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海や田畑の自然豊かな場所にあり、平成14年に特別養護老人ホーム、ケアハウスやデイサービスセンターなどの事業所と共に高齢者総合福祉施設として開設された。併設事業所のサービスを利用して利用もあり、総合福祉施設としての役割を活かしたケアにつなげている。法人全体の取組みとして、身の回りのチェックを行う時間を設け、職員は気持ち良い接遇マナーを身に着けている。長く勤務する職員も多く、認知症への理解が深い。それぞれの利用者の状態を把握して利用者の立場に立ち、温かな気持ちで寄り添うことができている。また、より良いケアにつなげるために家族との信頼関係を深め、利用者の日々の暮らしを支援することに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム森の園
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	越智 和弘
評価完了日	平成 28 年 9 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を目につく場所に掲示しており、日々意識づけ出来るような体制を整えている。また、ミーティング等の職員が集まる機会に理念に基づいた話し合いをし、職員間での共有・意識づけをし、実践につながるように努めている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえ、職員間で議論を重ね作成した。事業所内に掲示し、申送り時に日々復唱することで職員の意識統一を図っている。理念は誰にも優しい言葉を用い、職員は自分達の目指すケアそのものであると感じている。新人職員には管理者から指導を行い、同じ方向を向いて実践へつなげる努力をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 幼稚園や保育所との交流を図ったり、地域の方がお茶会のボランティアに来て下さったり、野菜を頂く事もある。また、地域のお祭りや運動会に参加させて頂いたり、施設の納涼祭や秋祭り、映画鑑賞会等に来園して下っている。</p> <p>(外部評価) 近所付き合いができていない程ではないが、運営推進会議など区長や民生委員といった地域の役割を持つ人々から協力を得ることはできている。近隣の幼稚園や小学校など地域の子供達との交流があり、運動会の競技に参加する場面もある。また、災害時における地域避難所としての活躍も期待でき地域住民の認知度は高い。</p>	大きな総合福祉施設の建物は周囲の目を引き、地域住民の認知度は高いが、グループホーム単独として、地域住民との日常的な関わりは薄い面がある。利用者が地域とつながりながら暮らし続けるにはどんな活動が必要か、職員間で話し合いの機会を持ち、具体的な取組みにチャレンジして欲しい。新たに地域の協力者を獲得するなど、風通しの良い事業所への発展に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) ご家族や見学に来られた方から相談を受ければ応じるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況の報告や会議メンバーから率直な意見をもらい、サービス向上に努めている。又、年2回ご利用者と一緒に交流を図りながら食事会を行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、市担当者、区長や民生委員などの参加協力を得て開催することができている。会議進行は職員が持ち回りで担当し、詳細な議事録を作成している。会議では利用者の状況報告や職員の入退職、異動報告、さらには感染症などの注意喚起がされている。また、利用者との食事会を盛り込むなど構成に工夫が見られる。利用者の日常生活に触れてもらったり率直な意見や地域情報交換が行われ、有意義な活用となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 毎回、運営推進会議等に出席して頂き、現状や取組みを報告し意見を伺うようにしている。また、伊予市グループホーム連絡協議会等に参加し、意見交換を行っている。分からない事や困った事があればその都度、市の担当者に相談している。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の生活状況に触れ、実情を伝えることができている。運営上の課題についてその都度相談できる気軽な関係にあり、アドバイスをもらうことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を行うなど、職員の身体拘束防止に対する知識、理解を深め抑圧感のない暮らしの支援に努めている。又、玄関の施錠はしておらず、安全を確保しつつ、自由な暮らしをして頂けるよう工夫している。	
			(外部評価) 身体拘束に関する勉強会を開催し、正しい理解ができるよう取り組んでいる。現在検討すべき対象事例はなく、身体拘束はしないという意識統一ができている。事業所は総合福祉施設の1階にあり、防犯のためテンキーを利用した施錠箇所や各ユニットに設けられた玄関のセンサーを活用し見守っているが、日中は利用者の安全を確保の上解放されて自由に出入りすることができる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会の中で課題として取り上げ、学習・理解を深め虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ミーティングの勉強会で課題として取り上げ、学習・理解を深める場を設けている。又、これらの制度について必要時にご利用者、ご家族等に周知を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等の際には書面に沿って説明を行い、不安や疑問がないか聞きながら納得を得たうえで手続きを進めていくようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見、要望は日頃の会話等から受けたり、引き出せるように努めている。ご家族には、ケアプラン説明時や面会時等にお聞きするように努め、職員間で共有し話し合いをして実践できることから取り組んでいる。	
			(外部評価) 入居時に重要事項説明書をもって事業所内外の苦情受付先について説明し、利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。面会時など家族等と直接会話する機会を大切にしており、利用者の日常の様子を伝えながら信頼関係を深めることに努めている。家族等より意見や要望があればその都度検討し、早期に反映できるように対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの際や年2回の個人面接、日々の業務の中で意見を聞いている。必要に応じて話し合いをし、運営に反映し活かすようにしている。 (外部評価) 管理者はシフトに入っており、職員の現状についての理解が深く、良好な職員関係を築き、長く活躍してもらいたいと希望している。申し送り時に職員同士で身だしなみチェックを実施して、利用者が気持ちよく暮らせるよう接遇マナーの向上に努めている。職員は管理者と面談できる機会が年2回あり、自己評価を行い個々の課題や目標を共有することができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の自己評価と人事考課や職員からの報告で勤務状況等を把握し、職員処遇への反映や向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内外の研修について情報提供し参加を促している。また、毎月勉強会を行い知識、技術の向上が図れるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 事業所の質の確保のためにも、研修等を通じて交流や連携できる機会を作っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前にご本人、ご家族にお話しをお聞きし、気持ちを受け止めることに努めている。入所後はご本人の思いや環境の変化による混乱等の把握に努め、安心して頂ける環境作りや他ご利用者、職員と馴染みの関係が築けるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居申し込み時困っている事不安な事、要望等伺い確認させて頂くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族の意向を把握しサービス導入段階で安心してサービスを受けられるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご本人様の出来る事出来ない事を把握し洗濯物干し、たたみ、食器拭き等お手伝いをお願いし、支え合う関係を築く事をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人様には通院介助、外出、外泊の機会にサービスの一部を担ってもらっている。電話等にて、日頃の様子をお知らせしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族や知人の方が面会に来られた際はゆっくり過ごしていただき関係が継続されるように支援している。 (外部評価) 入居前の生活状況などの把握に努め、利用者が大切にしていきたい思いをくみ取っている。友人や知人が面会に訪れてくれる機会もあり、事業所に入居してからも継続できるよう支援している。同じ出身地同士の利用者が地元の話に声を弾ませる姿が見られ、さりげなく話しにわりながら利用者同士の新しい関係づくりを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ご利用者同士の人間関係を把握しお互いに協力し支え合えるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去後、転所先に情報提供を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人はどうしたいのかを考え意思表示困難な方に対してはその方の生活歴やご家族等から情報を得て本人主体となるよう関わりをもてるよう努めている。 (外部評価) 何気ない日常の自然な会話の中で口にする利用者の思いを職員は気に留めることができおり、外食や外出先への希望などが聞かれている。思いや意向を伝えることが困難な利用者も多く、利用者の立場に立って職員間で話し合ったり、家族等との連携で本人本位のケアに繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族からも生活歴やサービス利用歴を伺い把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日バイタルチェックを行い、ケアプランに沿ってケアをしている。体調変化がある場合には記録をこまめに行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) カンファレンスを行い、モニタリングし個々にアイデアを出し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 計画作成担当者を中心に利用者や家族等の要望を取り入れ介護計画を立案している。職員担当制を敷かず、職員間でアイデアを出し合い、3カ月毎に介護計画を見直している。モニタリングを担当する職員が評価を実施し、介護計画に沿った記録の充実により根拠ある評価に繋げることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 時間の流れに沿って行動を記録している。日誌にて日々の申し送り事項を記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療機関への受診を援助して頂いたり、外出援助を受け入れている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域行事に参加したり、保育所等との交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に、ご本人及びご家族の希望を確認し、馴染みのあ る医師による継続的な医療を受けられるよう支援してい る。又、施設の委託医による往診も週1回あり、その他に 往診に来て下さる病院についても把握し、必要な方に適切 な医療が受けられる体制を整えている。	
			(外部評価) 協力医療機関の往診があるほか、利用者個々のかかりつけ 医へも家族の協力を得て継続受診できるよう支援してい る。専門医への受診内容も家族等と連携し、職員間で情報 を共有できているほか、適切な医療が受けられる工夫とし て日頃の様子を手紙に事細かくまとめ伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々、健康状態の観察をしており、体調の異常や変化が あった際は、早い段階で気付ける様努めている。又、必要 時には同施設の看護師や、かかりつけ医に連絡相談を行 い、対応出来る様心掛けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、医療機関へサマリーを作成し、環境の変化に よる不安や混乱を最小限に出来る様、情報の提供を行っ ている。又、入院中も関係者と連絡を取り合い、状態の把握 に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期ケアは行っていない事を、入所時にご家族様に説明 を行っており、理解して頂いている。重度化した場合に は、早い段階から家族・医療機関と話し合いを行ってい る。	
			(外部評価) 事業所では看取りはしていないが、入居時に重度化した場 合の対応について説明をし理解してもらっている。利用者 の状態の変化に応じ、その都度迅速な対応ができるよう誠 意をもって支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し、各自把握出来る様に努めている。医療機関や家族への連絡方法や手順は把握出来ているが、応急手当や初期対応については、職員の経験や勤務年数によって個人差がある。定期的な応急手当等に関する研修は行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の指導のもと、昼夜想定避難訓練を年に2回実施している。又、地域の方々とも災害時の協力体制や、備蓄品の備え等について話し合いが出来ている。 (外部評価) 年2回総合福祉施設合同で消防署立ち合いのもと防災訓練を実施している。緊急時には施設内で協力が得られる体制を整え、施設全体で備蓄品を確保している。地域の区長を中心として協力体制を築き、地域の避難所としての役割を担っている。確実な避難方法を身に着けるため、いつでもマニュアルが再確認できるよう見えやすいところに掲示している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご利用者の人格や個性を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない、適切な声掛けや対応をするよう努めている。 (外部評価) 利用者を取り巻く背景について把握し、それぞれの状況にあった対応ができるよう努めている。職員は利用者が羞恥心を感じないように入浴や排泄時の声かけ、ドアの開閉には特に配慮している。居室表札をはじめ個人情報の取り扱いには十分留意しており、ご家族の同意を得て適切に管理することができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望の表出や自己決定が可能な方と、そうでない方が居られる中、可能な方においては出来る限り要望を実現できるよう支援している。しかし、思いや願いの把握、自己決定が困難な方については、要望を引き出せる様働きかけは行っているが、十分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者の希望や意思を大切にし、本人のペースに合わせた暮らしの支援を行なっている。本人の気分や体調を考慮し、レクリエーションについても自由参加である。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣替えを行い、季節に合った衣類を着て頂ける様支援している。衣類の選択が困難な方、衣類にこだわりのあまりない方等に関しては、職員が選び着て頂いているが、一緒に選ぶ等の工夫が必要であると思われる。散髪やヘアカラー等は、訪問理容・美容によって定期的に行われている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員は、ご利用者と一緒にテーブルを囲み、同じ献立を味わっており、会話をしながら楽しく食事が出来る様支援している。又、食事一連の作業や、後片付けを手伝って頂き、ご利用者の力を活かして頂いている。当施設の畑で野菜を作っており、ご利用者と一緒に収穫する事により食材への関心を持って頂ける様努めている。	
			(外部評価) 献立は担当職員が利用者の好みを取り入れ、法人の栄養士からアドバイスを受けながら作成している。事業所の畑では季節の野菜を育て、収穫を楽しみながら旬の食材として活用している。食器拭きや下ごしらえなど、利用者ができることは力を活かしてもらえよう努めている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しそうに会話を弾ませながら和やかな雰囲気ですべての食事をしているのが印象的である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は、一人一人に合わせた量、形態で提供しており、バランス良く摂取出来る様支援している。水分摂取量が少ない方に関しては、声掛けや介助にて摂取して頂いたり、水分チェック表に水分量を記録する等し、一日の水分摂取量を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けや職員介助により、口腔ケアを行っている。義歯は、夜間に入歯洗浄剤にて殺菌・消毒をしている。ご本人自身で洗浄剤を使用し、入歯の管理をされている方に関しても、外し忘れがない様、職員が必ずチェックしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介助が必要なご利用者には、常に付き添い声掛けを行っており、安全・清潔の心配りに努めている。また、希望があれば極力すぐにトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らすようにしている。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、利用者の習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実践している。希望によりポータブルトイレを活用したり、昼夜の状態を見極めて用品を選定している。トイレでの自然排泄を大切にしながらも、一人ひとりの状態に応じ自立に向けた支援へ繋がるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便が出来る様、水分を多めに摂取して頂くよう声掛けを行っている。下剤使用に関しては、個々の排便状況に応じて、適切な量、使用頻度に気を付けて使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の間隔が開いているご利用者から優先的に声掛けし、入浴して頂いている。拒否やご本人の体調に合わせて時間や、日にちをずらして入浴して頂いている。	
			(外部評価) 週2回の入浴支援を基本に、状況や希望に沿って衛生や安全面を考慮しながら対応している。ユニット毎に個別浴槽があり、身体状況の低下によりシャワー浴も実施している。入浴が苦手な利用者もいるが、苦手である理由などの本人の思いを尊重し、職員が声かけなどを工夫しながら無理強いすることなく入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中出来るだけ起きて頂けるようにレクリエーションを行ったりしている。ご利用者の体調・状態に合わせて臥床して頂いている。日中、夜間の様子などは職員間で情報交換し、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の状態を医師に報告し、薬を調整して頂いている。目的や副作用等は職員がきちんと理解できるよう、全員分をファイルにまとめている。また服用して頂く際、必ず職員2人確認を徹底し、誤薬のない様努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の状態や能力に応じて、食器拭きや洗濯物干し、たたみ等の役割や活動を行える様に声掛けをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気のいい日には施設内を散歩、施設内にある畑の様子を見に行ったり、収穫をしたりと気分転換出来る様努めている。季節に応じて楽しんで頂けるようドライブをしたり、地域の行事に参加している。 (外部評価) 行事担当職員が計画を立て、菜の花見物やいちご狩り、ホテル観賞など、季節に応じた場所を選定し計画的に実施できており、日常を離れ気分転換が図れるよう努めている。また、家族の協力により墓参りができるなどの支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理は職員が行っている。買い物に行く際、何か欲しい物があれば購入している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば職員が仲介し電話をして頂いている。手紙は、年賀状やお礼のお手紙を書かれたりされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用のスペースには季節に応じた飾り付けや行事でお出掛けをした写真を飾り季節を感じて頂ける様にしている。いつも清潔が保てる様清掃を行っている。	
			(外部評価) 各ユニットは吹き抜けの中庭を囲む形で配置されている。利用者が集まるリビングは広々とし、テーブルとソファが備えてあり、利用者同士の関係性に配慮した配席を行うなど、それぞれに落ち着く場所で居心地よく過ごすことができている。清掃は職員が行い、清潔に管理されており、利用者が転倒しないよう水拭きモップの使用後の床の状態は入念に確認するなど配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ご利用者間の関係を考慮し、席替えを行い気の合った者同士で過ごせるよう工夫している。また、独りになれる様テレビ近くにソファを設置している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具や椅子、持ち物等を持ち込み居心地よく過ごせる居室の配慮を行っている。	
			(外部評価) 居室は広めのスペースが確保され、ベッド、洗面台や大型のクローゼットが備えてある。利用者の習慣や好みを尊重し畳を取り入れている居室もある。使い慣れた家財道具や大切にしている位牌などを持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) すぐに介助をせず、出来ることをやって頂くよう声掛け、見守り、必要に応じて介助を行っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 10 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海や山、田畑といった緑豊かな自然に囲まれ、穏やかな時間の流れの中穏やかに生活して頂ける良い環境にあります。季節ごとに畑で野菜の植え付け、収穫をしたり、散歩に出かけたりしています。四季の移り変わりを身近に感じて頂けるようドライブに出かけたり、四季の花々を見物したり、旬の食べ物を食べたりと、視覚・味覚からも感じて頂ける様なイベントや工夫をしています。日々の生活に関して、個々の性格・身体の状態を考慮し問題点があれば職員全体で取り組み、解決・改善を目指しています。不安や不満の少ない明るい毎日を送って頂きたいと願い、生活レベル・職員のレベルの向上に取り組んでいます。○ご本人の残っている力を見極め、安全・快適に暮らしていけるよう心身能力の温存・向上を目指し、サポートさせて頂いています。○ご家族の願いを受け止め、職員に相談や雑談ができ、ご家族が訪問しやすく過ごしやすい環境でありたいと常に心がけています。ご利用者はご高齢であり、ご家族にとって一緒に過ごせる時間は多くはありません。職員主体の場所ではなく家族と一緒に快適に過ごせる場所づくりが大事だと考えております。体のケアと心のケア、どちらにも心を配り、穏やかで明るい生活が送れることを目標としています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海や田畑の自然豊かな場所にあり、平成14年に特別養護老人ホーム、ケアハウスやデイサービスセンターなどの事業所と共に高齢者総合福祉施設として開設された。併設事業所のサービスを利用していた利用者もあり、総合福祉施設としての役割を活かしたケアにつなげている。法人全体の取組みとして、身の回りのチェックを行う時間を設け、職員は気持ち良い接遇マナーを身に付けている。長く勤務する職員も多く、認知症への理解が深い。それぞれの利用者の状態を把握して利用者の立場に立ち、温かな気持ちで寄り添うことができている。また、より良いケアにつなげるために家族との信頼関係を深め、利用者の日々の暮らしを支援することに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 越智 和弘

評価完了日

平成 28年 9月 30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 利用者様の住み慣れた地域に根差し、利用者様はもちろんの事、地域の皆様に愛されることを理念として掲げ、その目標へ向かう道しるべとして、折に付け、理念を唱和する事によって日々のケアへと繋げている。</p> <p>(外部評価) 地域密着型サービスの意義を踏まえ、職員間で議論を重ね作成した。事業所内に掲示し、申送り時に日々復唱することで職員の意識統一を図っている。理念は誰にも優しい言葉を用い、職員は自分達の目指すケアそのものであると感じている。新人職員には管理者から指導を行い、同じ方向を向いて実践へつなげる努力をしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 施設行事を通しての交流はもちろんの事、ご近所さんとして季節のお野菜を差し入れて下さったり、施設からも地域活動に積極的に参加させて頂いている。</p> <p>(外部評価) 近所付き合いができていない程ではないが、運営推進会議など区長や民生委員といった地域の役割を持つ人々から協力を得ることはできている。近隣の幼稚園や小学校など地域の子供達との交流があり、運動会の競技に参加する場面もある。また、災害時における地域避難所としての活躍も期待でき地域住民の認知度は高い。</p>	大きな総合福祉施設の建物は周囲の目を引き、地域住民の認知度は高いが、グループホーム単独として、地域住民との日常的な関わりは薄い面がある。利用者が地域とつながりながら暮らし続けるにはどんな活動が必要か、職員間で話し合いの機会を持ち、具体的な取組みにチャレンジして欲しい。新たに地域の協力者を獲得するなど、風通しの良い事業所への発展に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設として、積極的に介護実習生やボランティアを受け入れさせて頂き、心身の両面におけるケアのノウハウ等を学んで頂いている。また近年では希薄となりがちな三世代の交流として地元の幼稚園・保育園・小学校を訪ね、利用者様とのふれあいやその理解を深めて頂く事にも努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で得られた、地域の皆様及び施設の意見から、共同で旧正月のお茶会を開催。淹れたてのお抹茶を楽しまれ、利用者様みなさんが喜ばれている。また、利用者様への作品制作の依頼などもあり、地域行事において飾らせて頂いたことなどもしている。	
			(外部評価) 利用者や家族等、市担当者、区長や民生委員などの参加協力を得て開催することができている。会議進行は職員が持ち回りで担当し、詳細な議事録を作成している。会議では利用者の状況報告や職員の入退職、異動報告、さらには感染症などの注意喚起がされている。また、利用者との食事会を盛り込むなど構成に工夫が見られる。利用者の日常生活に触れてもらったり率直な意見や地域情報交換が行われ、有意義な活用となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議やケアマネージャー連絡会を通し、市担当者や地域包括センター職員と交流し、円滑に協力・依頼等が行える様、双方向の関係作りを行っている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、利用者の生活状況に触れ、実情を伝えることができている。運営上の課題についてその都度相談できる気軽な関係にあり、アドバイスをもらうことができている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」の理解、順守はもちろんの事、利用者様の精神面での制限となることのない様、スピーチロック等もしないケアに努めている。	
			(外部評価) 身体拘束に関する勉強会を開催し、正しい理解ができるよう取り組んでいる。現在検討すべき対象事例はなく、身体拘束はしないという意識統一ができている。事業所は総合福祉施設の1階にあり、防犯のためテンキーを利用した施錠箇所や各ユニットに設けられた玄関のセンサーを活用し見守っているが、日中は利用者の安全を確保の上解放されて自由に出入りすることができる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に利用者様の人格や尊厳を念頭に置いたケアを行っている。また、グレーゾーンととられかねないケアに対しては、管理者やリーダーを中心にそれが速やかに撤廃できる様、ケアの検討や声掛けが行えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 施設内研修を通して、職員全員の理解を深めている。いざ制度が必要となった場合には速やかに、社会福祉協議会や地域包括支援センター等の窓口相談できる体制が取られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所に際しては、重要事項説明書および契約書を元にご家族様と面談し、書面のみならず施設内を見学して頂くことにより、施設の実情や可能な事、不可能な事をきちんとご説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族様の運営推進会議への参加のほか、施設玄関にご意見箱を設置したり、契約書には第三者機関の相談窓口の電話番号を記す等を行っており、ご意見はクレームではなく金言であるとの考えをとっている。	
			(外部評価) 入居時に重要事項説明書をもって事業所内外の苦情受付先について説明し、利用者には日々の暮らしの中で希望を聞いている。面会時など家族等と直接会話する機会を大切にしており、利用者の日常の様子を伝えながら信頼関係を深めることに努めている。家族等より意見や要望があればその都度検討し、早期に反映できるように対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや個別面談において、職員個人の意見や考えをケアや運営に反映させ、利用者様がより良き環境となるような体制がとれている。 (外部評価) 管理者はシフトに入っており、職員の現状についての理解が深く、良好な職員関係を築き、長く活躍してもらいたいと希望している。申し送り時に職員同士で身だしなみチェックを実施して、利用者が気持ちよく暮らせるよう接遇マナーの向上に努めている。職員は管理者と面談できる機会が年2回あり、自己評価を行い個々の課題や目標を共有することができている。	職員の定着率を上げ人材の育成に繋がるよう良好な職員関係を構築するため、職員が自分の仕事に意義を見だしモチベーションを高めることにつながる取組みができることに期待したい。また介護に関する基礎的な勉強会の開催など工夫が見られるので、今後も職員の水準を引き上げ、質の高いサービスへと繋げるため継続させて欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個別面談や相談において、各職員の個性を理解し活かす事によって、より、やりがいを持って職務に当たれるよう努めている。また勤務状況により、職員に過度の負担が無い様に注意が払われている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職員の経験値やバックボーンを理解し、個々に合った指導を行うことにより、各々が一人前の介護者へと成長できる様、日々の業務を通じたトレーニングが行えている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各種研修やケアマネージャー連絡会を通し、各事業所の職員と交流する事により、新たな視点やその取り組みに刺激を受け、自らのサービスの質の向上が図れる体制作りを行っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新たな環境、新たな人々に接し、不安を抱かない利用者様は非常に稀と思われる。利用者様のパーソナリティを元に会話を積み上げ、「あなたを尊重したい」との想いを常に掲げる事で安心や、それが新たな生活の土台となるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に、ご家族・ご本人の要望や困っている事、不安に思っていることなどを聞かせて頂いている。それを踏まえた上で介護計画を作成し、身体的なサービス内容の説明を行ったり、話し合いをする事で信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学や入所相談の段階で、ご本人の状態や家族の要望をお伺いし、必要とされるサービスについて説明させて頂いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 残っている力を失ってしまわない・出来なくなっていたことが少しでも出来る様になり、喜びを感じれるような生活を目指し、心穏やかに暮らせ、職員と利用者様が互いに寄り添う関係作りを心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が面会の際には、日々の生活について伝え、ご自宅での生活などを伺い、問題等がある場合解決への糸口を見つけたり、ご家族からの提案などからヒントを得てより良い環境づくりを目指している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも来てくださいと声掛けしている。ご家族やご友人が来やすい雰囲気・環境づくりを心掛けている。又、施設内でも移動(ケアハウス・特養等)となった利用者様が双方向で行き来や交流を続けられるような関係が築けている。 (外部評価) 入居前の生活状況などの把握に努め、利用者が大切にしていきたい思いをくみ取っている。友人や知人が面会に訪れてくれる機会もあり、事業所に入居してからも継続できるよう支援している。同じ出身地同士の利用者が地元の話に声を弾ませる姿が見られ、さりげなく話しに加わりながら利用者同士の新しい関係づくりを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個性を考え、利用者が心穏やかに過ごせるよう席の位置等を考えている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院される為退去された方については、病院への情報提供、質問等受け、入院先での治療・生活等問題ない様ご家族へのフォローも含め心配りしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご家族の思いやご本人の思いに耳を傾け、職員間で情報を共有し、より良い支援につなげている。 (外部評価) 何気ない日常の自然な会話の中で口にする利用者の思いを職員は気に留めることができしており、外食や外出先への希望などが聞かれている。思いや意向を伝えることが困難な利用者も多く、利用者の立場に立って職員間で話し合ったり、家族等との連携で本人本位のケアに繋がるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族やご本人、ケアマネジャーにサマリー等の情報をもとに把握している。後から思い出すこともあるので、職員間で情報を共有する。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の、その日その時の状態の把握に努め、それに対し柔軟な対応を心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、ご本人・ご家族の要望を可能なかぎり取り入れ、カンファレンスや日常業務内で話し合い作成している。又、ご本人・ご家族から新たな要望や状況の変化があれば、その都度対応している。	
			(外部評価) 計画作成担当者を中心に利用者や家族等の要望を取り入れ介護計画を立案している。職員担当制を敷かず、職員間でアイデアを出し合い、3カ月毎に介護計画を見直している。モニタリングを担当する職員が評価を実施し、介護計画に沿った記録の充実により根拠ある評価に繋げることができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践等、個別にケース記録に記入し、職員全員が読むことで情報の共有が出来、スムーズに話し合いをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況・要望は可能な限り受け入れ、柔軟に対応するよう努めてはいるが、サービスの多機能化については、少しずつ取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 本人の希望や要望を伺い、安全に考慮しつつ外出等で人や物とのふれあいから刺激を受けることにより、心豊かな生活を送って頂ける様心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時にご本人やご家族の希望を確認し、これまでのかかりつけ医による継続的な医療が受けられるように支援している。ご家族の希望やご本人の状態によっては、同意を得た上で嘱託医や地域の医療機関に往診を依頼している。必要に応じてご家族に受診を依頼し、各診療科目の適切な医療が受けられるような形をとっている。 (外部評価) 協力医療機関の往診があるほか、利用者個々のかかりつけ医へも家族の協力を得て継続受診できるよう支援している。専門医への受診内容も家族等と連携し、職員間で情報を共有できているほか、適切な医療が受けられる工夫として日頃の様子を手紙に事細かくまとめ伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々のケアや体調の観察を通して、状態の変化や異変の早期発見に努めている。必要時、施設内の看護師やかかりつけ医、地域の医療機関を連携を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護要約書を作成し、日常生活状況などの情報提供を行っている。また、入院中も関係者やご家族と連絡をとり、状態把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 当事業所ではターミナルケアは行っていない。入所時に家族へそのことを説明し、理解して頂いている。重度化した場合には、早い段階から家族や医療機関と相談し、今後について検討している。 (外部評価) 事業所では看取りはしていないが、入居時に重度化した場合の対応について説明をし理解してもらっている。利用者の状態の変化に応じ、その都度迅速な対応ができるよう誠意をもって支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成しており、医療機関や家族への連絡やその手順について全職員が行えるように努めている。応急手当や初期対応の訓練は行えておらず、所有している経験や知識によって職員間で差がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回昼夜想定避難訓練を実施している。マニュアルも作成しているが、全職員が全てを把握するには至っていないと思われる。施設は地域の避難所となっており、災害時には地域の方に支援を求めただけでなく、施設の備蓄や設備を開放することで相互の協力体制を築いている。 (外部評価) 年2回総合福祉施設合同で消防署立ち合いのもと防災訓練を実施している。緊急時には施設内で協力が得られる体制を整え、施設全体で備蓄品を確保している。地域の区長を中心として協力体制を築き、地域の避難所としての役割を担っている。確実な避難方法を身に付けるため、いつでもマニュアルが再確認できるよう見えやすいところに掲示している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) マニュアルに基づき、全職員がご利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーの確保を徹底するように努めている。ミーティングの際、勉強会を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学び実践している。 (外部評価) 利用者を取り巻く背景について把握し、それぞれの状況にあった対応ができるよう努めている。職員は利用者が羞恥心を感じないように入浴や排泄時の声かけ、ドアの開閉には特に配慮している。居室表札をはじめ個人情報の取り扱いには十分留意しており、ご家族の同意を得て適切に管理することができている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 希望の表出や自己決定が可能な利用者には、出来る限りその希望が実現できるように支援している。想いや希望の表出、自己決定が困難な方には、働きかけを行い把握に努めてはいるが十分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者一人ひとりのペースに合わせた生活の支援を行っている。フロアで過ごしたい方にはフロアで、居室で過ごしたい方には居室で過ごして頂いている。レクリエーションやお手伝いをして頂く際も、特に強制することなく声掛けを行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気温や季節に合わせて衣類を準備している。更衣が可能な方は、好みの衣類を着て頂いているが、介助が必要な方の衣類は職員が選んでおり十分ではない。髪については、主に施設の訪問理美容院を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者から献立について希望や意向を伺うこともあるが、あまり具体的な返答はないため、季節の食材や旬のものを考慮し、職員が献立を立てているのが現状である。食材の皮むきや筋取り、後片付けなどは一緒にして頂いている。 (外部評価) 献立は担当職員が利用者の好みを取り入れ、法人の栄養士からアドバイスを受けながら作成している。事業所の畑では季節の野菜を育て、収穫を楽しみながら旬の食材として活用している。食器拭きや下ごしらえなど、利用者ができることは力を活かしてもらえよう努めている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しそうに会話を弾ませながら和やかな雰囲気ですべてしているのが印象的である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量の少ない方は声掛けしながら介助を行い経腸栄養剤などを使用し、1日に必要なカロリー摂取に努めている。水分量が少ない方には水分チェック表を作成し職員が意識的に水分摂取を勧めたりして水分を摂って頂いている。嚥下状態によってトロミ剤を使用したり、食事形態を変えるなどして工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず声掛けや必要に応じて介助を行い、口腔ケアの実施を支援している。歯磨き粉や洗口液、歯磨きガーゼなど利用者一人ひとりの状態に合わせて用意しており、口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の方には毎晩義歯洗浄剤を使用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握出来るよう努め、トイレ誘導を行い、介助の必要な利用者には常に付き添いを行っている。転倒等が無いよう気を付けながら、排泄の自立に向けて支援している。	
			(外部評価) 排泄パターンを把握し、利用者の習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実践している。希望によりポータブルトイレを活用したり、昼夜の状態を見極めて用品を選定している。トイレでの自然排泄を大切にしながらも、一人ひとりの状態に応じ自立に向けた支援へ繋がるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便が出来るように、献立を考えたり、水分をしっかり摂って頂くよう努めている。下剤使用に関しては、排便状態に応じて、適切な量、使用頻度に気を付けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 午後より入浴のお誘いをし、拒否されるご利用者には強制せず、日を改めお誘いを行っている。	
			(外部評価) 週2回の入浴支援を基本に、状況や希望に沿って衛生や安全面を考慮しながら対応している。ユニット毎に個別浴槽があり、身体状況の低下によりシャワー浴も実施している。入浴が苦手な利用者もいるが、苦手である理由などの本人の思いを尊重し、職員が声かけなどを工夫しながら無理強いすることなく入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来るだけ起きて頂けるよう心掛けているが、無理はさせず、体調や状態に応じてベッド臥床を勧めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 目的や副作用について確認しやすいようご利用者のファイルにまとめている。薬は処方箋を元に2人以上の職員で確認し、作成している。服薬前には、職員同士で名前、日付を復唱し、確認を行い、誤薬がないよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作りのお手伝いや、洗濯物たたみ等の活動が行えるよう声掛けを行っている。施設内を散歩して頂いたり、畑の作物の様子を観に行ったり、収穫も行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気分転換して頂く為、施設内を散歩して頂いている。行事では、季節ごとの催し物（花見、蛍見物、ぶどう狩り等）に応じてお出かけしたり、地域の行事にも参加している。 (外部評価) 行事担当職員が計画を立て、菜の花見物やいちご狩り、ホテル観賞など、季節に応じた場所を選定し計画的に実施できており、日常を離れ気分転換が図れるよう努めている。また、家族の協力により墓参りができるなどの支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は職員が行っている。行事や買い物に同行して頂いた際、おやつ等購入して頂いたり、施設に回ってくるパン屋さんのパンを購入して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望されるご利用者には、誰に掛けるのか確認をし、支援している。時間によっては日を改めて頂いている。手紙は年賀状作りを職員の支援で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間には、季節に応じた飾り付けをしたり、行事の際撮影した写真を掲示している。</p> <p>(外部評価) 各ユニットは吹き抜けの中庭を囲む形で配置されている。利用者が集まるリビングは広々とし、テーブルとソファが備えてあり、利用者同士の関係性に配慮した配席を行うなど、それぞれに落ち着く場所で居心地よく過ごすことができている。清掃は職員が行い、清潔に管理されており、利用者が転倒しないよう水拭きモップの使用後の床の状態は入念に確認するなど配慮している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ご利用者間の関係を配慮し、席やテーブルの配置を行っている。会話が弾まない場合は、職員が間に入り話題作りに取り組んでいる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、家で使っていた家具や馴染みのある物を持って来ていただくようお願いしている。ご利用者の希望があれば、ご家族にその旨をお伝えし、購入して頂いている。</p> <p>(外部評価) 居室は広めのスペースが確保され、ベッド、洗面台や大型のクローゼットが備えてある。利用者の習慣や好みを尊重し畳を取り入れている居室もある。使い慣れた家財道具や大切にしている位牌などを持ち込むことができ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 出来る事は、出来るだけご自分で行って頂き、事故等なく安全に生活を送って頂けるよう必要に応じて、見守り、介助を行っている。</p>	